



～ 夢ひとすじに ～  
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 27 年度 第 9 号  
平成 27 年 12 月 1 日 (火) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「釣 り 方」

校長 やました せいじ  
山下 誠二

11月7日に開催されました、埼玉県中学校駅伝競走大会において、男子が2年連続優勝（大会新記録）、女子も6位と健闘しました。おかげさまで男子は、今年も全国・関東大会への切符を勝ち取ることができました。11月29日には、全国大会に先立ち、関東大会が千葉県柏市で開催されました。各都県の代表33校が出場。宮原中は、最終6区のトラック勝負で、見事初優勝を飾りました。今回4秒差で負けた群馬県の前橋市立富士見中学校は、上毛新聞に「全国大会の山道のコースではうちが強い」と語っています。今年こそ、体調を万全にし、関東大会覇者としてのプライドを持ち、全国のテッペンを目指してほしいと強く願っています。

また、吹奏楽部が11月8日に文京区での日本管楽合奏コンテストに出場しました。演奏後、部長の泉水さんが、インタビューで「宮原中はどんな学校ですか？」と聞かれた際に「靴のかかとかきれいに揃っている学校です」と答えてくれ、司会者もびっくりしていましたが、校長としては、大変うれしい一言でした。

さて、昔々の中国でのお話です。ある村に一人の少年がいました。その少年はとてもお腹がすいていたので川で釣りをしてる老人に「魚を一匹ください。」とお願いをします。しかし、老人はそれを断り、少年にこう言います。「私がこの魚をお前に与えれば、とりあえずお前の飢えは満たされる。しかし、またお腹をすかせることになるだろう。だから、魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えてやろう。そうすれば、お前は一生食べていくことができるだろう。」このお話は、「魚を一匹与えれば一日腹が満たされる。釣り方を教えれば一生腹が満たされる。」ということわざのもとになったお話です。この言葉を例えば、学習で考えた場合、教師や保護者の方が、問題を解いてしまっただけで解答のみを子どもに与えるのは「魚を与えること」にあたり、子どもと一緒に問題を解いて問題の解き方を教えるのは「釣り方を教えること」にあたります。日常生活でも同じことが言えると思います。例えば、明日の学習用具の準備を全て保護者の方がしてお子さんはランドセルやカバンを背負うだけというのは「魚を与えること」であり、お子さんと一緒に準備に取り組んで、そのコツを教えるのは「釣り方を教えること」であると考えます。「教えること」と「教えきること」の区別をし、生徒の興味・関心を高めるために、教えきらないように、生徒が自ら考える余地を残しておくことが重要だと思います。中学校に入学し、一段とたくましくなった1年生。部活動や行事の中心として頑張っている2年生。進路決定を間近にして日夜努力している3年生。宮原中の生徒は、今学期もたくさんの「釣り方」を学び、身に付けてきました。今回の駅伝チームも同じです。「やらされている練習」から「自分たちの目標に向かって自ら行う練習」に変わってきているからこそ、それが結果として表れてきているのだと思います。本来、子どもはやりたがり、意欲に満ちていると言われます。学校で学んだことを日常生活の中で生かしてほしいと願うのは保護者の方も同じだと思います。今日からいよいよ師走。今年のまとめの月です。たくさんの「釣り方」を学び、2学期を締めくくってくれることを願っています。

駅伝、全国・関東大会出場に対しまして、地域の皆様、保護者の皆様、関係小学校の教職員や保護者の皆様そして卒業生、在校生からも多くの寄付金をいただきましたことに感謝申し上げます。

